

大樹

みなさま
お変わりなく
お元気ですか

第14号

平成29年12月吉日
発行

香川県立保健医療大学同窓会翠丘会

すいきゅうかい

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原 281 番地 1
TEL (087) 870-1212 (代)



在宅療養を支える医療・介護について ～在宅介護と仕事の両立の困難さ～

翠丘会会長
松原 文子 (高松市社会福祉協議会)

大樹の会員の皆さまへ

皆様、お健やかに過ごしてでしょうか。

私が本同窓会の会長を仰せつかり2年余りが過ぎました。この間、会員の拡大や総会・各種事業の活性化など、様々な活動に取り組んでおりまして、会員・役員の方々のご理解・ご協力により、少しずつ成果が出てきていると感じています。例えば、今年度の総会の開催場所を、初めて本大学から、交通の利便性の高い高松瓦町FLAGS階の健康ステーションに移し、クラス会などを兼ねて一人でも多くの会員の方々にご参加いただけるよう工夫しました。また、総会後の記念講演では、“おてらおやつクラブ活動について～「おそなえ」を「おさがり」として「おすそわけ」～こどもの貧困問題解決への貢献として”の演題で、「おてらおやつクラブ」の事務局長の、桂 浄薫(じょうくん)様をお招きし、また、“高松市でのこども食堂活動の紹介”を、上野忠昭様にしていただきました。お陰様で、こども・若者支援と地域等の連携の在り方に関心を持たれた大きな反響があり、初参加の方々も多く、ご好評を頂きました。とはいうものの、参加者は総会・講演会延べ120名余りで、会員3,000名余に比して、いささか寂しいと感じております。今後も、会員の皆様方からのご意見等をお聞きしながら、一層、魅力ある同窓会活動となるよう努めて参りたいと存じます。

さて、今回は表題について少し述べたいと存じます。私の夫は、13年前に50歳で若年性認知症を発病しました。偶然、発病後5～6年目に本同窓会誌「大樹」に寄せた文章がありましたので、以下に紹介いたします。

『私の泣き部屋』

高松市地域包括支援センター 松原文子

お彼岸に私は、夫から大きなプレゼントを買ったので、そのことを報告したいと思う。夫とお四国参りを3年前から始めて、その日私たち2人は、久万高原町にいた……。

夫は、国民宿舎古岩荘の、値段の割にはボリュームのある夕食を、黙々と食べている。気をつけないと、山葵の塊や飾りのものまで食べようとする。そう、夫は若年性アルツハイマー病なのだ。何時まで、こうして一緒にレストランで食事が出来るのかと思うと、自然に涙がこぼれてくる。泊りがけなので、少しほっとしたのか、珍しく、私は、ビールを注文して夫の姿を見つめていた。夫の食べる様子は、病前性格そのままに律儀で優しく親切なのだ。

思えば、昭和53年に高松市役所に就職して今日まで、色々な事があった。私自身も軟骨肉腫という立派ながんにもなった。そして、5年前に夫が発病するまでは、夫の腕枕が『私の泣き部屋』だった。でも、今はなくなってしまったとずっと思っていた。だから、大学院に学び、仕事に打ち込み、一層忙しく自分を追い込むことで、直面を避けてきた。今は力不足ながら、センター長となり、帰宅は毎晩8時を過ぎる。そして今、少し身体を揺らしながら、穏やかに食事をする目の前の夫を見てると、

久しぶりに、また泣けてきたのだ。そうなんだ。やっと気がついた。たとえ認知症になっても、穏やかな夫がそこにいる。腕枕の『私の泣き部屋』は、なくなってしまったけれど、夫が、ただ、そこにいるだけで、私は癒されていた。楽天的で意地っ張りな私は、この先どんな事があっても仕事も家事も介護もあきらめないつもりだ。支えてくれる人が、夫も含めてこれからはそこにいると、やっと、気づいたのだから。

今、改めて読み返すとやっぱり胸が熱くなります。

あれから、さらに5～6年が経過し、夫の認知症は進行し『要介護5』の、ほぼ寝たきりの状態になりました。それでも、ケアマネジャーさんの調整の元、親戚、友人の援助などを得ながら在宅療養を続けてきました。平日はデイサービス。ヘルパーさんによる夕方のデイサービスの迎えと身体・生活支援、福祉用具等の介護保険サービスの利用。また実費の家事・介護サービスなどを。私も相変わらず、介護・仕事、家事も諦めずと夫と共に頑張ってきました。ところが、先日、誤嚥性肺炎となり緊急入院をしてしまいました。1度目は8日間で退院できたものの、わずか4日後に再度入院。今、この“大樹”の原稿を、夫の付き添いをしながら病室で書いています。いつも主治医がいてくれて、酸素、吸引、点滴、体位交換、リハビリなど病院での手厚い医療・看護を受け、大きな安心感を持つことが可能になりました。一方で、食事による栄養が困難になり、鼻腔栄養を始めたことや、認知機能の低下などから唾液を誤嚥してしまうなど刻々と変化する病状に、在宅介護の限界を感じて悩んでいます。それでも、苦痛な吸引を日に10回以上も受けながら、そっと口を開け協力してくれる我慢強い様子を見ると、病前性格と少しも変わらない夫が愛しくてならない気持ちになります。きっと神様が、『私がずっと夫を愛おしむような魔法をかけたのに違いない』と思います。そして、こうして原稿を書いていて、年を重ねて懐かしむのは看護を学んだ学生時代の仲間のこと、それぞれの人生の居場所で精一杯頑張っている仲間が励みです。時々互いの安否を確かめ合う場があることに感謝です。多くの仲間が県内外で活躍しており、今後、県外の支部活動も始まることを期待しています。それぞれの居場所で人生の厚さを噛みしめながら共に、本同窓会を盛り立てて参りましょう。宜しくお願いいたします。

最後になりますが、5月に同窓会名簿が発刊されますが、一人も多くの皆様方がご購入され活用されることを期待いたしますと共に、会員の皆様方のご発展とご健勝を祈願いたしましてご挨拶とさせていただきます。

参考：*おてらおやつクラブとは、活動趣旨に賛同する全国のお寺とひとり親家庭を支援する各地域の団体をつなげ、経済的に困難な状況にあるひとり親家庭へお菓子を届ける事業であり、全国で767寺院、287団体が参加している。



精神科看護師としての半年を経験して

看護学科10期生
佐久総合病院
生治 純一

みなさんこんにちは！平成28年度に卒業しました、10期生の生治です。4月から地元の長野に戻って精神科の看護師として働いています。

就職してからは5月中旬までが研修で、電子カルテの使い方、採血・点滴など、バイタルサインの見方など基本的なことから指導を受け、以降はそれぞれの職場となる診療科の病棟で、先輩方からの教えを受けながら半年を乗り越えてきました。

半年間、精神科の看護師として仕事をしてきた中で感じることは常に同じ自分であり続けることの難しさです。採血やバイタルサイン測定を拒まれることや、「布団をかけてください」と同じ患者さんから何回もナースコールが鳴ったり、「お葬式に行かなきゃ」と痛い足を引きずりながら何度も病棟を出ようとする認知症の患者さんもいます。拒否される理由が分からずモヤモヤしたり、何度も同じことを繰り返す患者さんに苛立ってしまう自分がいることに後になっ

て気づかされます。特に、業務に追われているときは尚更です。職場の先輩方からはいつも変わらない自分であると言われるのですが、患者さんに対応する中で、自分の気持ちや感情がとても揺れ動かされることを実感し、同じ自分であり続けることの難しさを痛感しています。

困ることや悩み事があった時は職場の先輩方の協力も得ながら対応していますが、上手くいかずお叱りを受けることも多々あり、とても落ち込みます。そのような時は、実習を乗り越えてきた経験を励みにしたり、思考することを止めずに頭の中で考えを巡らせるという大学での学びを思い出し、「なぜなのか」と理由を自分に問いかけながら分析をするようにしています。

辛いこともありますが、「ありがとう」と声をかけて頂ける時はやはり嬉しいものです。職場の方々だけでなく患者さんから「ありがとう」と言葉を頂けるのも同様です。その言葉を求めていつも仕事をしている訳ではありませんが、「ありがとう」と言われれば自然と笑顔が出てきます。患者さんが病棟でゆっくりと体と心を休ませ、笑顔あふれる中で退院できるよう支援できることがこの先の目標です。



就職と進学

臨床検査学科4期生
富山大学附属病院検査・
輸血細胞治療部
杉江 和茂

私は、臨床検査学科を卒業後に保健学研究科を修了し、現在の職場である富山大学附属病院検査・輸血細胞治療部に入職した。入職と同時に同大学の博士課程に進学し、それからの4年間はルーチン業務後や休日に研究に勤しむ怒涛の毎日だった。病院で日をまたいでしまう事もしばしばあり、翌日の業務に支障を来さないように、かつ研究が滞らないようにバランスを取るのに苦労した。また、私の研究テーマはこれまで一度も関わったことのない分野で、どうやって実験すれば良いのかわからない…そんな状態で助言をいただきながらなんとか知恵をひねり出し、失敗を繰り返しながら研究を進めていく日々で、投げ出したくなるような時も何度もあった。そんな4年間はあっという間に過ぎ、

周囲の助けもありなんとか学位を取得するに至った。

私が博士過程に在籍中指導いただいた先生に、博士を取っても人生は変わらない、自分でチャンスをつかんで何かを成せるよう努力しなさい。と、よく言われた。実際、学位を取得したが今のところ私の人生に何も変化はない。つまりまだ何も成していないただの学位をとった人である。しかし、進学したことで日常業務とは異なる未知の分野に触れることができ、非常に良い経験になったと思う。もちろん進学しないと何もできないわけではないが、私にとっての進学はこれから何かを成すきっかけになったと思っている。

日々の研究は楽しいことばかりではないし、肉体的・経済的な面でも大変である。しかし、今振り返れば思い切って飛び込んでみて良かったと思う。そして、せっかく大変な思いをしたのだから、少しでも何かを成せるようこれからも精進していきたいと思う。



患者さんに安心感を与えられる看護師になるために

看護学科1年
太田 早耶

私は、母が看護師であり、小さい頃から母が祖父母の看護をしている姿を近くで見してきました。その時に祖父母が安心した表情をしており、人を心身共に支える看護師に魅力を感じたことから看護師を目指すことに決めました。本学は施設・整備が整っており、学内実習室には医療の現場に近い環境が作り出されているため、高度化する医療に正確に対応できる技術に加え、グループワークが多いことから、看護師に欠かせない高いコミュニケーション能力を身につけられると思い、この大学で看護師を目指そうと思いました。

入学当初は、人の体について学ぶ難しさや内容の多さに戸惑いましたが、理解できた時の喜びや、グループワークを通して仲間とそれぞれの考える看護について意見交換する楽しさを感じることができ、看護に対する関心を確実に高められています。現在では専門科目も増え、ベッドメイキングや洗髪などさまざまな看護技術を習い、自分が

少しずつ看護師に近づいていることを実感し、楽しく演習に励んでいます。

本学の良いところは、先生と学生の距離が近く、アットホームな雰囲気があるところだと思います。質問した時にはお忙しい中、先生方は優しく丁寧に指導下さるので、勉強しやすい環境が整っています。また、楽しむときはしっかり楽しんで、やらなければならないときには真剣に取り組む看護に対しての思いが強い仲間と学習することができ、日々良い刺激をもらいながら過ごすことができます。

また、本学では国際交流があることも魅力の一つだと思います。日本と違う外国の医療の良さを知り、どのように活かすことができるのかということを目で確かめるために、私も機会があれば参加したいです。

これから、専門科目が増え、実習も始まります。苦しい時もあるかもしれませんが、初心を忘れず仲間とともに自分の夢を叶えられるように、しっかりと看護と向き合っていきたいと思います。そして、患者さんの心に寄り添い、患者さん一人ひとりに合った看護を提供できるように、大学の学びを大切にしていきたいです。



充実した大学生活

臨床検査学科1年
砂川 沙紀

私は小学生の頃から医療に関する仕事に興味を持っていました。その中でも、医療現場において重要な役割を果たす臨床検査技師という仕事に強く惹かれ、この職業を目指そうと決めました。

香川県立保健医療大学は、歴史のある学校であり、設備も充実しているため、臨床検査技師になるための勉強空間がとても整っていると感じています。この大学は半数以上の方が香川県の出身ですが、私は香川県の出身ではなく、知り合いも一人もいなかったため、大学生活が少し不安でした。しかし、少人数なこともあり、同じ臨床検査学科の人だけではなく、看護学科の人とも交流ができ、仲良くできています。また、サークルや歓迎会などで先輩や先生とも知り合う機会が多いため、わからない

ことを色々教えていただいています。先生と生徒の距離が近いことはこの学校の良いところだと思っています。

大学では、地域の方と触れ合う機会も多いです。私は健康サポーターとしての活動にも参加しており、地域の方の健康診断のお手伝いや、大学祭では減塩をテーマにポスターを作り、展示・説明を行いました。また、ボランティアで祭りのお手伝いをしたこともあり、とても勉強になりました。散歩をしているときに、近所の方に「今年の大学祭も行くよ」と話しかけられたこともあり、この大学は本当に地域の方に親しまれていると感じました。

他の大学と比べると規模が小さいため、他大学が羨ましく感じるときもありますが、それ以上に他大学では味わえないような経験もでき、とても充実した大学生活を送ることができています。勉強も徐々に専門的になり、大変になるとは思いますが、自分の理想の臨床検査技師になれるように頑張っていきたいです。

大学院紹介

大学院博士後期課程紹介

臨床検査学科 奥田 潤

平成 28 年 12 月 28 日付けで、本学大学院保健医療学研究科臨床検査学専攻・博士後期課程の設置申請が文部科学省により認可されました。それに伴い、平成 29 年 4 月から、本学大学院保健医療学研究科は看護学専攻（修士課程）と臨床検査学専攻（博士前期課程・博士後期課程）に改組されました。修士課程および博士前期課程では、人々の「健康と自立」の支援を基本理念として、保健医療の分野においてより高度で専門的な学術理論及び実践能力を修得するとともに、包括的な判断能力と指導力を有する高度専門職業人の育成を、博士後期課程では、臨床検査学において、新規かつ独創的な研

究成果を発信し、より高度な専門的能力かつ広範な知識を有する教育者・研究者の育成を、それぞれの教育目標に掲げています。

本学卒業生や本学大学院臨床検査学分野修了生の多くの方々に、本学大学院に進学していただければと期待致しております。

保健医療学研究科博士後期課程（臨床検査学専攻）で学んでいます

大学院保健医療学研究科
博士後期課程臨床検査学専攻1年 宮川 朱美

平成 29 年 4 月に保健医療学研究科博士後期課程（臨床検査学専攻）が設置され、第一期生として入学しました。前期は、臨床検査学に関する幅広い知識を多くの先生方から主に英語論文を抄読することで学びました。現在は、感染症と博士論文のテーマである酸化ストレスに関連した英語論文を抄読し

つつ、博士論文研究計画書を作成し、研究実施に向けて動き始めています。修士課程で学んでいた時とは、職場における立場や体力は違いますが、前向きな気持ちは同じです。大学の先生方をはじめ、私の周りの多くの方々に支えられ学べることに常に感謝し、研究を続けていこうと思います。



学祭報告

翠丘会は、平成29年10月21日土曜日に開催されました大学祭(橄欖祭)に出展しました。今回も同窓会企画として、「健康戦隊 ケンサ&カンゴレンジャー」を看護と検査の合同で出展いたしました。クイズラリーを通して、来場者の方々に看護や臨床検査について理解していただきました。



総会報告

平成29年5月27日土曜日、瓦町FLAG 8階、健康ステーションにおいて総会を開催しました。参加者50名、議案すべてが承認されました。

総会終了後、記念講演を開催しました。



I

演題

おてらおやつクラブ活動について
～おてらから「おそなえ」を「おさがり」として「おすそわけ」～
こどもの貧困問題解決への貢献として

講師

おてらおやつクラブ事務局長
奈良県天理市 善福寺 桂 浄薫 先生

II

演題

高松市のこども食堂活動の紹介

講師

浄願寺 上野 忠昭 先生

お知らせコーナー

- 同窓会名簿作成にご協力ください
- 次回の総会は平成31年5月開催予定です
- 大学に同窓会のEメールアドレスが登録されました。お名前と卒業年度を明記して、ご意見等をお寄せください。
E-mail : suikyukai@chs.pref.kagawa.jp
- トートバッグ・マグカップを作製しました。総会などでお配りしています。



平成28年度収支決算

平成29年度予算

収入の部			
	28年度予算	28年度決算	内訳
会費収入	1,920,000	2,084,000	新入会員 88 名
寄付	100,000	100,000	国際交流に関する諸経費に対する学長からの寄付
雑収入	500	210	受取利子
繰入金	1,405,807	1,405,807	
同窓会懇親会参加費	0	0	
その他	0	0	
合計	3,426,307	3,590,017	

支出の部			
	28年度予算	28年度決算	内訳
会議費	100,000	103,808	
(1) 総会	0	9,600	
会場代	0	9,600	
講演費	0	0	
警備費	0	0	
電気代	0	0	
懇親会	0	0	
印刷費	0	0	
雑費	0	0	
(2) 役員会	100,000	94,208	役員・評議員会 3回
旅費	40,000	32,000	
軽食代	60,000	62,208	
事業費	300,000	1,037,690	
(1) 会報誌発刊	300,000	363,406	
(2) 同窓会名簿作成	0	0	
(3) 記念品作製	674,284	674,284	平成28年度第3回役員・評議員会で決定 トートバック、マグカップ(各50)
事務費	340,000	10,645	
(1) 通信費	300,000	6,645	監査報告書依頼、現金書留郵送代を含む
(2) 消耗品	20,000	0	
(3) 印刷費	0	0	
(4) パソコン関連費	0	0	
(5) 雑費	20,000	4,000	入学式アルバイト代
入学式	7,000	1,000	
(1) 祝い金	0	0	
(2) 旅費	7,000	1,000	
卒業式	307,000	228,595	
(1) 祝い金	0	0	
(2) 旅費	7,000	3,000	
(3) 記念品・花束	300,000	225,595	
大学支援金	600,000	500,583	(大学支援金内訳) 国際交流派遣学生支援(2名): オープンキャンパス: 108,875円 40,000円 同窓会の大学祭参加費: 188,113円 国際交流記念品: 108,000円 卒業生保健師研修会(第19回報告会): (その他) 25,568円 同窓会退会(2名)返金: 40,000円 国際交流関連: 30,027円 その他 0 40,000円
支出小計	1,654,000	1,922,321	
次年度繰越金	1,772,307	1,667,696	
支出合計	3,426,307	3,590,017	

積立金	
ゆうちょ銀行	6,000,000
百十四銀行	4,000,000

収入の部			
	29年度予算	28年度決算	内訳
会費収入	1,920,000	2,084,000	新入会員 80 名
寄付	100,000	100,000	学長より寄付(国際交流事業に対して)
雑収入	500	210	利子等
繰入金	1,667,696	1,405,807	
その他	0	0	
合計	3,688,196	3,590,017	

支出の部			
	29年度予算	28年度決算	内訳
会議費	270,000	103,808	
(1) 総会	120,000	9,600	
会場代	0	9,600	
講演費	100,000	0	
雑費	20,000	0	
(2) 役員会	150,000	94,208	役員・評議員会 3回
旅費	60,000	32,000	
軽食代	90,000	62,208	延べ60名
事業費	300,000	1,037,690	
(1) 会報誌発刊	400,000	363,406	
(2) 同窓会名簿作成	0	0	
(3) 記念品作製	0	674,284	
事務費	340,000	10,645	
(1) 通信費	300,000	6,645	総会案内発送代を含む
(2) 消耗品	20,000	0	
(3) 雑費	20,000	4,000	
入学式	7,000	1,000	
(1) 旅費	7,000	1,000	
卒業式	307,000	228,595	
(1) 旅費	7,000	3,000	
(2) 記念品・花束	300,000	225,595	
大学支援金	731,000	500,583	(大学支援金内訳) オープンキャンパス: 116,000円 同窓会の大学祭参加費: 210,000円 保健師研修会: 35,000円 助産師交流会: 30,000円 国際交流: 340,000円
その他	0	40,000	
支出小計	1,955,000	1,922,321	
次年度繰越金	1,733,196	1,667,696	
支出合計	3,688,196	3,590,017	

積立金	
ゆうちょ銀行	6,000,000
百十四銀行	4,000,000

平成29年度事業計画

香川県立保健医療大学同窓会事業計画

1. 組織に関する事項

- 1) 会員増加対策
 - (1) 在学生未加入者への働きかけ
 - (2) 新入生に対する入会勧奨
- 2) 役員・評議員会(年3回の開催)
- 3) 支部づくり、役員・評議員会構成の再構築による会員相互のつながりの強化

2. 同窓会活動に関する事項

- 1) 会報誌「大樹」発刊(14号)
- 2) 大学祭での出席
- 3) 香川県立保健医療大学ホームページにおける同窓会コーナーの充実

3. 在学生に関する事項

- 1) 大学行事への支援(事業担当者から企画書提出)
 - (1) オープンキャンパス(継続)
 - (2) 国際交流(継続)
- 2) 入学式、卒業・修了式
 - (1) 卒業・修了生への花束贈呈
 - (2) 学生会員の卒業・修了生への記念品贈呈
- (3) 学生会員への入会記念品の配付(トートバッグまたはマグカップ)

香川県立保健医療大学同窓会通常会員入会状況

(平成29年5月19日現在)

歴代学校名	人数(人)
香川県衛生検査技師養成所	156
香川県臨床検査専門学校	348
香川県看護専門学校臨床看護学科	1,188
香川県看護専門学校公衆衛生看護助産学科	456
計	2,148
香川県立医療短期大学臨床検査学科	69
香川県立医療短期大学看護学科	67
香川県立医療短期大学専攻科	31
計	167
香川県立保健医療大学臨床検査学科	172
香川県立保健医療大学看護学科	534
香川県立保健医療大学助産学専攻科*	8
香川県立保健医療大学大学院*	0
計	714
臨床検査学科在学生(うち平成29年度新入会員)	72(16)
看護学科在学生(うち平成29年度新入会員)	228(42)
助産学専攻科(うち平成29年度新入会員)*	4(4)
大学院(うち平成29年度新入会員)*	0(0)
計	304
合計	3,333

*助産学専攻科生および大学院生のうち本学の卒業生ですすでに同窓会に加入している者は除く。

香川県立保健医療大学同窓会役員名簿

(平成29年5月27日現在)

役職名	氏名	回生	区域
会長	松原文子	看専16	高松
副会長	池田繁信	臨専5	高松
副会長	松下明美	看専20	東讃
副会長	内海知子	看専21	教員
幹事(会計)	末澤千草	臨床検査学科教員	教員
幹事(会計)	植原千明	大学2	教員
幹事	中村丈洋	臨床検査学科教員	教員
幹事	岡本ゆい	大学12 看護3年	学生
監事	宮川朱美	臨専9	高松
監事	渡邊由香	看専23	高松
評議員	吉井由美子	看専21	高松
評議員	富山清江	看専22	東讃
評議員	岸本修次	臨専3	中讃
評議員	吉本和子	臨専9	中讃
評議員	小林紀子	短大看1	西讃
評議員	杉内友香	短大看3	高松
評議員	堀井和世	短大検2	高松
評議員	竹内美由紀	看公助19	教員
評議員	三好理子	大学11 看護4年	学生
評議員	岩崎彩花	大学11 臨床検査4年	学生

国家試験合格状況・進路状況

多くの学生が県内の医療機関や施設に就職しました。

平成28年度	種別	看護師	保健師	助産師	臨床検査技師
	受験者数	66人	21人	10人	20人
合格者数	64人	20人	8人	20人	
合格率	本学	97.0%	95.2%	80.0%	100.0%
	全国平均	94.3%	94.5%	93.2%	89.9%

*合格率の全国平均は、新卒者のみの全国平均です。

住所変更は、小野高速印刷(株)までご連絡下さい!!

TEL 0120-73-7288 FAX 0120-81-2299
E-mail:meibo@dousou.info